

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害福祉企画課
評価対象期間	令和４年４月１日～令和８年３月３１日

1 指定概要

施設概要	名 称	アレアス (北九州市障害者スポーツセンター)	施設類型	目的・機能
			I	— ⑦
	所 在 地	北九州市小倉北区三郎丸三丁目 4 番 1 号		
	設置目的	スポーツ活動を通じ、障害者の体力の増強及び残存機能の維持向上、その他市民の心身の健全な発達に資することを目的とする。		
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・無	ペナルティ制 有・無	
指定管理者	名 称	北九州市障害者スポーツセンター運営共同事業体		
	所 在 地	北九州市八幡東区中央二丁目 1 番 1 号		
指定管理業務の内容		1 北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例に規定する利用の許可、利用の許可の取消し及び使用料の徴収に関すること。 2 施設及び設備の維持管理に関すること。 3 施設内の清潔の保持、整頓その他の環境整備に関すること。 4 障害者スポーツの指導・普及に関すること。 5 その他、スポーツ施設の運営に関して市長が必要と認める業務。		
指定期間		令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 3 1 日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点			
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		37			
(1) 施設の設置目的の達成		35	4	28			
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。							
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取り組みがなされ、その効果があったか。							
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。							
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。							
[評価の理由、要因・原因分析]							
単位：人							
利用者数	【参考】R3 年度(更新前)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度		
要求水準	218,000	218,000	218,000	218,000	218,000		
目標値	218,000	218,000	218,000	218,000	218,000		
実績	46,213	79,327	125,195	141,095	155,925		
達成率		36.4%	57.4%	64.7%	71.5%		
※ ・・・評価対象年度（以下、同じ）							
【障害別利用者数】					単位：人		
	肢体	視覚	言語聴覚	知的	内部	精神	計
R3 年度(更新前)	6,471	1,096	1,399	8,976	1,616	2,766	22,324
R4 年度	7,627	1,561	2,029	11,004	2,164	4,971	29,356
R5 年度	13,025	1,729	2,843	16,439	3,573	8,205	45,814
R6 年度	13,584	1,852	2,741	18,703	3,948	8,219	49,047
R7 年度	12,836	1,908	2,973	18,007	4,175	8,614	48,513
○今期は、コロナ禍収束後の回復期にあたり、							
○令和 7 年度の開所日数は 307 日、利用者数は 155,925 人（障害者 65,701 人（施設利用に必要な付添人 17,188 人を含む）、一般 90,224 人）で、指定期間中で最高値を記録した。この要因として、コロナ禍以後、普及啓発活動を地道に行った結果、スポーツに親しむ人の数が回復してきたものと考えられる。							
○しかしながら、目標 218,000 人に対する達成率は 71.5%に留まり、目標値を達成していたコロナ禍以前の水準には至っていない。							
○障害別利用者数については、年々増加傾向にあるものの、5 万人を下回る実績で推移しており、目標値の達成に向けては、更なる利用促進が必須である。							

【スポーツ大会及び交流促進事業 参加者数】(事業団担当)

単位：人

事業名	アレアスプール なんでも記録会	交流ボッチャ大会	パラスポーツ等 普及体験教室	アレアスフェスタ
R3年度(更新前)	63	26	413	34
R4年度	62	25	843	130
R5年度	76	138	389	177
R6年度	62	118	157	138
R7年度	59	123	340	111

【生涯スポーツ支援事業】(事業団担当)

項目	生涯スポーツ支援事業Ⅰ (プール以外)		生涯スポーツ支援事業Ⅱ (プール)	
	回数	参加者数	回数	参加者数
R3年度(更新前)	98	1,339	89	1,181
R4年度	143	2,413	88	1,083
R5年度	147	1,227	150	1,333
R6年度	219	2,239	123	912
R7年度	219	2,122	123	1,120

【一般プログラム提供】(MS S担当)

項目	スタジオ		プール	
	回数	参加者数	回数	参加者数
R3年度(更新前)	577	6,748	340	1,770
R4年度	746	7,242	459	1,486
R5年度	765	11,367	712	5,321
R6年度	813	14,234	712	5,069
R7年度	799	17,611	690	5,657

【情報提供事業】(事業団担当)

項目	センターだより		ホームページ による情報発信	市政だより掲載
	回数	配布箇所	更新回数	回数
R3年度(更新前)	5	1,790	65	13
R4年度	5	1,902	46	13
R5年度	5	1,900	46	18
R6年度	5	1,900	49	14
R7年度	5	1,925	68	18

○平成29年度より北九州市福祉事業団(以下「事業団」とミズノスポーツサービス株(以下「MS S」との共同事業体として運営。

○民間事業者であるMS Sは、主に「一般向けスポーツプログラム」及び「トレーニング運動指導」等を担い、事業団は、障害者スポーツの普及・振興を担うことで、各事業者が有する強みを活かし、施設の利用促進を図っている。

○スポーツ大会及び交流促進事業については、各年度とも更新前の数値を超えており、障害者スポーツの普及と一般利用者との交流に効果を上げている。

○生涯スポーツ支援事業においても、各年度とも回数・参加者数ともに大きく伸ばしており、障害のある人がスポーツに触れる機会は着実に増加している。

○一般プログラム事業においては、更新前と比較して、参加者数が右肩上がりに増えており、利用者数の押し上げの最大要因となっている。

○情報提供事業においては、センターだよりの配布箇所や市政だよりの掲載を増加させるなど、主に紙媒体を活用した広報に注力した。一方で、ホームページを活用した情報発信は伸びておらず、令和7年度においては、障害のある人の利用者数は微減していることから、障害のある人に対するデジタル媒体を活用した広報には課題がある。

【「施設の設置目的の達成」に関する評価まとめ】

○要求水準には達していないものの、施設利用者数は年々右肩上がりに増加している。

○広報面には課題があるものの、スポーツ大会及び交流促進事業や生涯スポーツ支援事業の参加者数が大きく増加している点は、障害者スポーツの普及と一般利用者との交流に寄与するものとして高く評価できる。

以上を踏まえて、評価「4」とする。

(2) 利用者の満足度

- | | | | |
|--|----|---|---|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 15 | 3 | 9 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | | | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | | | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | | | |
| ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | | | |

[評価の理由、要因・原因分析]

【利用者アンケート】

単位：％

満足度	全体	接遇面	設備・清潔面	プログラム内容等	有効回答数
目標値	90%以上				
R3年度(更新前)	70%	80%	69%	61%	
R4年度	70%	81%	69%	60%	184
R5年度	76%	85%	71%	73%	201
R6年度	76%	84%	73%	73%	160
R7年度	73%	85%	66%	68%	175

※満足度は、得られた回答のうち、「満足」「だいたい満足」の割合を集計

○利用者アンケートは、例年3月中旬～下旬の概ね2週間の期間で実施しており、接遇面、整備・清潔面、プログラム内容等の3つの項目を対象に実施。有効回答数175件は、サンプル数としては少なく、幅広く意見を収集できているとは言い難い。

○満足度については、各年度とも目標値を下回っている。個々の項目では、接遇面が各年度とも満足度 80%を超えている反面、設備・清潔面及びプログラム内容等については、満足度 70%前後で推移している。

○利用者意見の把握については、アンケートのほか、利用者との意見交換会や意見箱の設置により利用者意見を把握し、施設運営に反映している。

《具体例（一部抜粋）》

- ・「アレアスの玄関前の道路上での 10 分以上の駐車は危険なためやめて欲しい」との要望に対し、路上付近に設置のコーンに、送迎の場合は地下駐車場をご利用いただく内容の掲示を行った。
- ・「プールのシャワー室内がすべりやすい」との意見に対し、手すりを 3 箇所設置。
- ・駐車場の逆走の苦情があり、注意喚起を促す放送や掲示物を設置し、さらに駐車場内に一方通行の矢印も設置した。

○苦情やトラブルへの対応については、毎月実施の全体会議にて、対応を協議・検討するとともに、情報共有、対応の統一及び意識改革に努めている。また、終業時の終礼を実施することで、夜間業務で起こった引き継ぎ事項等を夜間勤務職員全員で集約・情報共有し、翌日の朝礼に引き継ぐ体制をとっている。

○利用者への情報提供については、要望等への対応に関する進捗状況を、施設内の目立つ場所に掲示することで周知を図っている。

○利用者の満足度を高めるための取組として、以下の取組を実施。

- 「一般向けスポーツプログラム」については、利用者意見のほか、スポーツトレーニングのトレンドを反映させるため、3 か月毎に内容の見直しを実施。
- 「障害者向けプログラム」については、利用者意見のほか、県内の障がい者スポーツセンター及び障がい者スポーツ協会（福岡県・福岡市）との情報交換を実施。
- 円滑な施設運営を目的とし、障害者スポーツ団体や個人利用者をメンバーとする運営委員会を設置。

【「利用者の満足度」に関する評価まとめ】

○利用者アンケートについては、有効回答数が少なく、利用者からの幅広い意見を集約しているとは言い難い。また、満足度においても、目標値を下回っており、満足度向上に向けた取組の強化は必要である。一方で、意見交換会の実施や意見箱の設置等の取組を行うことで、日常的に利用者意見を収集するよう努めている点は評価できる。

○苦情やトラブルへの対応について、情報共有や統一した対応を確実に行うことで、利用者サービスの向上につながっている点は評価できる。

○利用者満足度に対する取組については、定期的なプログラムの見直しや、類似施設との情報交換、独自に施設の運営委員会を設置し、施設運営に反映させることで、利用者を飽きさせない工夫を行っている点は高く評価できる。

以上を踏まえて、評価「3」とする。

2 効率性の向上等に関する取組み		30		18	
(1) 経費の低減等		20	3	12	
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。					
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。					
② 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。					
[評価の理由、要因・原因分析]					
【光熱水費】					
	R3（更新前）	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
予算	53,829 千円	50,828 千円	50,828 千円	50,828 千円	50,828 千円
決算	36,627 千円	50,675 千円	47,617 千円	47,754 千円	53,876 千円
○人員配置については、事業団・MSSともに業務の内容・繁閑を考慮して嘱託員・パート職員を採用しているほか、軽易な業務については、北九州市障害者スポーツボランティアの会（SKET）に登録したボランティアを活用する等、柔軟な対応を行っている。特に、事故のリスクが大きなプール監視員については、MSSのスタッフにより、高レベルの専門性を確保している。 ○保守点検業務については、安全性・効率性・経済性の観点から、経費削減が見込まれる業務のみ、市の承認を経た上で再委託を実施している。 ○経理等事務処理モニタリングでは、経理体制、料金収受、支出手続、報告書、個人情報等の各項目を目視確認したところ、決裁ルートの明確化や、団体経理との切り分け、領収書の記載内容及び保管状況など、すべて「適」であり、適切に実施していることが確認された。 ○館内巡回を徹底し、節電・節水をはじめ、冷暖房の細やかな温度調節を行っているほか、トレーニング室等の日差しが強く当たる部屋にはサンシェードを設置し、遮熱効果を高めるなど、光熱水費の低減に努めている。 ○令和7年度の光熱水費において、決算額が当初予算額を約 3,000 千円上回っている。この要因は主に物価高騰の影響によるものであり、指定管理者の責めに帰すものではない。					
【「経費の低減等」に関する評価まとめ】					
○人員配置については、専門職員と嘱託・パート職員を業務に応じて配置するなど、経費の低減に努めながら、サービスの質を維持し各種講座を実施している点で高く評価できる。 ○光熱水費については、今後も上昇していくことが見込まれており、これまで以上に節電・節水対策を講じていく必要がある。					
以上を踏まえて、評価「3」とする。					

(2) 収入の増加		10	3	6
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。				
[評価の理由、要因・原因分析]				
【使用料収入】				
年度	収入目標	収入実績	目標達成率	
R3（更新前）	39,947 千円	6,820 千円	17.1%	
R4 年度	26,859 千円	6,746 千円	25.1%	
R5 年度	26,859 千円	14,822 千円	55.2%	
R6 年度	26,859 千円	17,581 千円	65.4%	
R7 年度	26,859 千円	21,010 千円	78.2%	
【定期券】				
年 度	目標数	実績数	達成率	前年比
R3（更新前） (6、8～9、12～3 月除く)	208 人	147 人	70.7%	64.2%
R4 年度 (4～8 月除く)	291 人	160 人	55.0%	108.8%
R5 年度	500 人	242 人	48.4%	151.1%
R6 年度	500 人	273 人	54.6%	112.8%
R7 年度	291 人	160 人	55.0%	108.8%
【トレーニング室チケット販売枚数】				
年 度	目標数	実績数	達成率	前年比
R3（更新前）	一般 12,600 枚	一般 545 枚	4.3%	89.5%
	年長者 751 枚	年長者 411 枚	54.7%	117.5%
R4 年度	一般 12,600 枚	一般 627 枚	5.0%	115.0%
	年長者 751 枚	年長者 524 枚	69.8%	127.5%
R5 年度	一般 12,600 枚	一般 1,699 枚	13.5%	271.0%
	年長者 751 枚	年長者 506 枚	67.4%	96.6%
R6 年度	一般 12,600 枚	一般 1,603 枚	12.7%	94.3%
	年長者 751 枚	年長者 611 枚	81.4%	120.8%
R7 年度	一般 12,600 枚	一般 1,787 枚	14.2%	115.0%
	年長者 751 枚	年長者 712 枚	94.8%	116.5%
○使用料収入については、一般利用者の増加にともない年々増加しているが、収入目標には達していない状況にある。				
○使用料収入増加に向けては、目標値を設定し、定期券販売を通じた会員数の拡大や、トレーニング室のチケット販売促進といった取組を行っている。				
●定期券販売については、収入目標には達していないものの、一般利用者が増加傾向にあることから、取組次第で目標数の達成は可能と推察する。				
●トレーニング室チケット販売枚数については、一般会員においては、令和5年度以降、目標の15%を下回る状況が続いている。				

一方で、年長者会員においては、令和7年度に達成率の約95%を記録するなど、着実な伸びを見せている。 ○このほか、収入拡大のための具体的な取組として、以下の内容を実施している。 ●都度利用者に対し、会員利用を案内。 ●関連団体及び施設におけるパンフレットの設置、近隣自治会に対し施設利用についてのPR、地域情報誌への施設PRの掲載。 【「収入の増加」に関する評価まとめ】 ○各種スポーツプログラムの提供や情報発信は継続して行われており、一般会員数は右肩上がりに上昇している。現状において、収入増加効果は十分とは言えない。 以上を踏まえて、評価「3」とする。				
3	公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み	20	16	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		10	4	8
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。				
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。				
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。				
[評価の理由、要因・原因分析]				
○共同事業体の運営体制として、常勤5名、嘱託及び非常勤26名の31名で実施している。常勤職員には所長1名・所長補佐1名・一般スポーツプログラム担当者1名・理学及び作業療法士の資格を有する指導員各1名がおり、所長を管理責任者とし、所長補佐を中心とする3つのライン（総務管理係8名・企画指導係12名・利用者促進係9名）が構築されている。 ○職員の資質・能力向上に向けては、所内研修として、サービス提供者の資質向上を目的とする接遇研修・人権研修・指導研修を実施しているほか、健常者等への助言・指導の質向上を目的とする資格取得研修（スポーツインストラクター等）への積極的な参加を奨励している。 ○地域や関係団体との連携や協働については、以下の内容を実施している。 ●市民との交流の場として「アレアスフェスタ」を継続して開催。イベントでは、施設利用方法についてのPRや、パラスポーツ体験、パラアスリート講演会などを通じて、スポーツ活動、健康づくりに取り組むきっかけを提供している。 ●幼少期からパラスポーツに触れる機会を提供するため、市内各小学校や特別支援学校に指導員を派遣し、パラスポーツ体験を実施。 ●小倉リハビリテーション病院に対しては、令和元年度より肢体不自由者の方のリハビリ教室に指導員が参加し、参加者の障害程度に応じた助言を行っている。 ●北九州市立大学に対しては、地域創生学群のカリキュラムの一つである障害者スポーツ関連講座の一部を受け持っており、講座を通じて、学生の障害者スポーツ指導員資格習得支援を行っている。				

- このほか、施設周辺の美化向上の一環として、令和7年度より「道路サポーター制度」に登録し、定期的に美化清掃を行っている。

【「施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況」】に関する評価まとめ】

- 職員の資格取得への奨励や、若い世代に対する人材育成を積極的に行うとともに、地域や関係団体への普及啓発活動も数多く行っており、指導者養成や市民の障害理解に貢献するものとして高く評価できる。

以上を踏まえて、評価「4」とする。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	10	4	8
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

[評価の理由、要因・原因分析]

- 個人情報保護体制については、事業団内で管理体制を整備しており、必要最小限の取得、鍵付きキャビネットによる資料保管、データ持出し制限等を実施している。
- 利用者の平等利用については、利用規定や方法等を館内の掲示板やホームページに掲載し、障害の有無を問わず誰もが利用できるよう配慮している。
- 経理等事務処理モニタリングでは、経理体制、料金収受、支出手続、報告書、個人情報等の各項目を目視確認したところ、決裁ルート明確化や、団体経理との切り分け、領収書の記載内容及び保管状況など、すべて「適」であり、適切に実施していることが確認された。
- 安全対策については、安全管理マニュアルを整備しており、これに基づく施設巡視や、障害特性を踏まえた安全管理研修会を開催する等、ハード・ソフト両面からの安全管理を実施している。
- 危機管理体制について、防犯対策においては、小倉北警察署協力のもと、不審者対策などの防犯研修を実施している。防災対策においては、所内に自衛消防隊を整備するとともに、消防計画を策定して小倉北消防署へ提出している。このほか、所内掲示板への避難マップ掲示や、火災を想定した避難訓練を利用者とともに実施する等の取組を実施している。

○事故発生防止対策については、北九州市消防局協力のもと、各設備での人身事故を想定し、人工呼吸等の心肺蘇生法や AED の取り扱いについての救命講習を実施している。特にプールにおいては、令和3年度に発生した事故を教訓にマンツーマン体制を敷いて講座を実施する等、再発防止に努めている。

【「平等利用、安全対策、危機管理体制など」】に関する評価まとめ】

○当該施設は、障害特性を踏まえた管理運営体制が必要。この点について、センターでは、マニュアルの整備・施設巡視・消防と連携した研修会の実施など、ソフト・ハード両面からの丁寧な取組みを行っていることは、利用者の安全に寄与するものとして高く評価できる。

以上を踏まえて、評価「4」とする。

【総合評価】

合計得点	71	評価ランク	B
【評価の理由】			
指定期間を通して、利用者数・収入ともに右肩上がりに増加している。中でも、障害者向けプログラムや一般利用者との交流イベントにおける参加者数が増加傾向にある点は、障害者スポーツの普及や市民の障害特性理解につながっていると考える。			
また、市民交流イベントの開催や大学及び医療機関等への専門職派遣を積極的に行うことで、地域住民に対する障害理解の促進や次世代への人材育成に取り組んでいる点は、障害者スポーツ拠点としての役割を果たしていると言える。			

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

より適正な評価につなげられるよう、要求水準や目標値の設定については、社会情勢や施設の状況を踏まえ、次回公募に向けて検討いただきたい。

【評価レベル】

評価レベル	乗率		評価レベルの考え方
5	100%	良	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

A：総合評価の結果、優れていると認められる
(合計得点が80点以上)

B：総合評価の結果、やや優れていると認められる

(合計得点が70点以上80点未満)

C：総合評価の結果、適正であると認められる

(合計得点が60点以上70点未満)

D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる

(合計得点が50点以上60点未満)

E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる

(合計得点が50点未満)